

【2013年】○腸内細菌の健康への役割



原 英二 がん研究会がん研究所部長



大谷 直子 がん研究会がん研究所主任研究員



【2012年】○幹細胞から卵子を作成



斎藤 通紀 京都大学大学院教授



林 克彦 京都大学大学院准教授



【2011年】○光合成たんぱく質の結晶構造解析



沈 建仁 岡山大学大学院教授



梅名 泰史 大阪市立大学特任准教授



【2009年】○劣悪環境に応答する植物ホルモンの応答経路解明



石濱 泰 慶應義塾大学大学院准教授



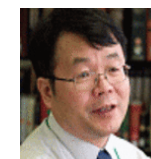
【2008年】○細胞の初期化



山中 伸弥 京都大学教授



○新しい高温超伝導体



細野 秀雄 東京工業大学教授



【2007年】○ヒトiPS細胞の作成



山中 伸弥 京都大学教授



○量子スピンホール効果



永長 直人 東京大学大学院教授



ノーベル賞受賞者数（自然科学系）

○今世紀に入ってから、我が国は米国、英国に次いでノーベル賞受賞者数（自然科学系）が多い。

日本人受賞者

受賞年	氏名		対象研究
1949	湯川 秀樹	物理学賞	中間子の存在の予想
1965	朝永 振一郎	物理学賞	量子電気力学分野での基礎的研究
1973	江崎 玲於奈	物理学賞	半導体におけるトンネル効果の実験的発見
1981	福井 謙一	化学賞	化学反応過程の理論的研究
1987	利根川 進	生理学・医学賞	多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明
2000	白川 英樹	化学賞	導電性高分子の発見と発展
2001	野依 良治	化学賞	キラル触媒による不斉反応の研究
2002	小柴 昌俊	物理学賞	天文物理学、特に宇宙ニュートリノの検出に対するパイオニア的貢献
2002	田中 耕一	化学賞	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
2008	南部 陽一郎	物理学賞	素粒子物理学における自発的対称性の破れの発見
2008	小林 誠	物理学賞	小林・益川理論とCP対称性の破れの起源の発見による素粒子物理学への貢献
2008	益川 敏英	物理学賞	
2008	下村 脩	化学賞	緑色蛍光タンパク質（GFP）の発見と生命科学への貢献
2010	鈴木 章	化学賞	有機合成におけるパラジウム触媒クロスカップリング反応の開発
2010	根岸 英一	化学賞	
2012	山中 伸弥	生理学・医学賞	成熟細胞が、初期化され多能性を獲得し得ることの発見
2014	赤崎 勇	物理学賞	明るく省エネルギーの白色光源を可能にした効率的な青色発光ダイオードの発明
2014	天野 浩	物理学賞	
2014	中村 修二	物理学賞	

	1901－1990年	1991－2000年	2001－2014年	合計
米国	156	39	55	250
英国	65	3	10	78
ドイツ	58	5	6	69
フランス	22	3	6	31
日本	5	1	11	17

※ 2008年南部陽一郎博士、2014年中村修二博士は、米国籍であることから、米国に計上

出典：文部科学省作成